

我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立比叡平小学校

○調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【結果について】

《概要》

国語、算数の教科の調査結果から、本校は「知識」と「活用」に関する両問題とも正答率が高く、これまでの「確かな学力」の定着に向けた授業改善の成果が表れている。

質問紙調査から、本校は学校が好きな児童が多く、学習への関心が高いことがわかった。また、家で学校の宿題をする等、学習習慣が身に付いている児童が多いという結果も出た。一方、自分の言動や行動に自信を持ってない子どもやや多く、本校の課題である。

《強み・弱み》

質問紙調査では、「学校へ行くのは楽しいですか。」という質問に、「当てはまる。」などの肯定的な回答を選択した児童の割合が非常に高かった。また、国語、算数の教科の勉強が好きだと肯定的な回答をする児童の割合も高く、学校が好きで学習意欲が高い児童が多いことが本校の強みである。これまで本校で取り組んできた「確かな学力」の定着に向けての授業改善によって、児童の学習意欲が高まり、特に技能や知識・理解についての学力も高まっていることが、調査結果からもわかった。

国語の考えを説明するための根拠となる表現を見つける問題と算数の式の意味の説明を記述する問題の正答率がやや低い結果となった。質問紙調査において「自分の考えや意見を発表することは得意ですか。」という質問に、「当てはまる。」などの肯定的な回答を選択した児童が少なく、自分の考えを説明する表現力に苦手意識を持っており、本校の弱みといえる。ただし、話す・書く能力や思考力は高いものがあり、質問紙調査では、「難しいことにも失敗を恐れずに挑戦していますか。」という質問に肯定的な回答をした児童が少ないことや記述式の問題の無回答の割合が高いことから、難しいと感じた問題には自信をなくしてあきらめてしまう傾向があり、本来持っている力を発揮できなかった児童が多かったと考えられる。

【指導の充実に向けて】

- これまで継続して取り組んできた、意見交流を中心とした学び合い（協同的な学び）の学習をさらに進め、自分の思いや考えを書いたり、説明したりするなどの言語活動の場を増やし、自信を持たせ、表現力を高めていく。
- 授業改善に力を入れるとともに授業の中でつまづいている児童への支援に力を入れ、個別の指導を強化していく。
- めあてや課題、ふりかえりなどをノートに書く指導を徹底し、「授業と家庭学習をつなぐノート指導」の取り組みについても、今後も継続して取り組んでいく。
- 児童が自分の考えに自信を持って意欲的に表現できるよう、互いに認め合い、支え合い、学び合う支持的な学級づくりに取り組む。